



### ◆ 設備の修理や工事

高圧ガスを利用する設備に異常を認めたときは、直ちに修理または交換しなければなりません。

燃焼器等の設備や器具などを清掃する場合は、取り扱い説明書に従い、必ず専用の器具を利用しましょう。設備の工事や修理の場合、設備内部のガスを水か窒素で置換して行わなければなりません。

修理・工事は、予め修理等の作業計画と責任者をきめ、作業は作業計画に従うとともに、責任者の監視の下に行うと定められています。修理などの途中で異常があったときには、直ちにその旨を当該責任者に通報するための措置を講じて行う必要があります。

ペーパライザーの維持管理は、取り扱い説明書により実施し、定期検査実施の際は、予め販売事業者に連絡して行ってください。

### ◆ 作業終了後

作業中止のときはバルブを閉じ、調整ハンドルを緩めておきます。容器の消費後は外部からの異物逆流防止のため、残圧を残して（調整器を外す前にバルブを完全に閉止して）返却してください。

燃焼器やバーナーの使用終了後、ガス栓、器具栓、容器バルブを確実に閉め、損傷を防ぐためキャップを施します。

バルブが損傷を受けないよう、また容器が地震時等でも転落、転倒等して衝撃を受けないように対処しなければなりません。

### ◆ 容器の廃棄

**高圧ガスが入ったままの容器の廃棄は禁止**です。

廃棄は、容器も高圧ガス（酸素や可燃性ガス）も、法に定められた手順で行わなければ違法行為です。所有する容器であっても、**廃棄は必ず販売店等に依頼**して行ってください。高圧ガスの専門業者以外に、容器の廃棄を依頼したり、勝手に処分したりするなどはたいへん危険な行為です（死亡事故例もあります）。

### ◆ 容器の移動について

移動はバルブや容器本体の損傷等に注意し、容器には固定式プロテクター、またはキャップを施さなければなりません（もちろん調整器は外しましょう）。

地盤面上を手で移動するときは、充填容器等の胴部が地盤面に接しないようにし、転がす、引きずる、落とすなど、粗暴に扱うことは禁止です。

容器を車両に積載・荷卸しするときは、ゴムマットの上で行うなど、容器に衝撃を与えてはいけません。容器と車両の間は、布製マット等で摩擦を防止し、容器にきずやへこみ等をつけないよう留意しなければなりません。



### ◆ 車両で移動するとき

**車両の前方及び後方からの見やすい箇所に、警戒標（高圧ガスステッカー）を掲げ、容器は荷台の前方に寄せて積み（車両後バンパの後面から30cm以上の水平距離を保持：緩和措置あり）、転倒転落防止やバルブの保護等を実行しなければなりません。**

液化ガスの充填容器は、立積み、または斜め積み（角度20°以上、安全弁放出口上向き）で、10kgを超える容器は一段積み以上は禁止です。また積載ガスのイエローカードには、必ず緊急時連絡先を記入し、消火器（期限が有効で適切な能力単位を有するもの）や、防災工具（災害発生防止のための応急措置に必要な資材及び工具）等と共に携行しなければなりません。

### 防災工具等（携帯品例）

- 赤旗、赤色合図灯又は懐中電灯
- 革手袋
- 漏えい検知剤(石けん水)
- 車止め(2個以上)
- 容器バルブ開閉ハンドル
- メガホン
- ロープ(15m以上のもの2本以上)
- 容器バルブグラブスパナ又はモンキースパナ

※ただし容器の内容積25ℓ以下の容器ばかりを、合計50ℓ以下積載した場合は必要ないものもあります（液化石油ガス容器で10kgを超える場合は必須）。

ワゴン車や乗用車などは高圧ガスの輸送に適していません。やむをえず利用するときは、漏えい時も滞留しないよう、常時換気を十分行うことが必要です。

駐車車両に長時間（概ね2時間以上）積載したままにすることは禁じられています。より罰則の厳しい貯蔵基準違反にあたります。駐車は容器等の積み卸し以外、保安物件の密集地域を避け、交通量が少ない安全な場所を選び、極力車両を離れないようにしなければなりません。

大量のガス（容積300m<sup>3</sup>以上の可燃性ガス及び酸素など）を輸送する場合には、移動監視者を設けるなどの定めがあります。また2024年の例示基準改正により、「荷ずれ防止、荷台へ固定、後方からの衝撃に備える」などの転落防止対策が厳格化されました。くれぐれもご注意ください。

※詳しくは販売店まで。